

2013年2月7日
第4回知の市場年次大会

東京・日本橋本町 知の市場

開講機関：関東化学／お茶の水女子大学LWWC増田研究室

関東化学株式会社
取締役 CSR部長
三好 一生

1. 機関の紹介と教育活動の趣旨

関東化学株式会社(以下、当社)は、お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター(増田研究室)とともに、2013年度から新たな開講機関(東京・日本橋本町)として活動します。

当社は1944年設立の総合試薬メーカーとして、試薬・電子材料・臨床検査薬・化成品の4つの分野において品質の高さで強い競争力を持つ製品を供給しています。当社の経営理念は、『我々は未来を考え 新しいものへの挑戦を図り 社会に対し積極的に貢献する』であり、従来からCSR活動にも積極的に取り組んできました。このたびの開講機関としての活動も、その一環として行うものです。

- 【社名】 関東化学株式会社
- 【本社】 東京都中央区日本橋室町2丁目2番1号
- 【代表者】 代表取締役社長 野澤 学
- 【設立】 昭和19年11月13日
- 【資本金】 30億円
- 【事業内容】 化学薬品の製造販売

2. 知の市場参加の経緯

当社は2012年度(後期)に、お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター(増田研究室)の連携機関として、『試薬論(生活と産業を支える社会インフラとしての試薬)』と称する講座を開講しました。このときの経験を活かし、2013年度からは開講機関としての活動を開始することとしました。

3. 2013年度の開講内容及び目標と課題

2013年度は、前期と後期にそれぞれ1科目の講座を開講します。

会場はどちらも、関東化学ビル(地下鉄三越前駅・JR新日本橋駅)別館3階 研修室です。

【前期】 新国際石油論 (概要)

今日、石油は経済活動・社会生活の根幹をなし、国際経済と国際政治そして生活の安全保障に大きな影響をもたらす。20世紀は、「石油の世紀」といわれたが、21世紀に入って以後、開発された非在来型資源(とりわけ、シェール層資源)は、21世紀も暫くは「石油の世紀」が続くことを示唆している。本講義においては、石油産業の成り立ちと石油の持つ地政学的な意味をおさえ、石油資源の価値を最大限実現するための条件を考えるとともに、石油の持つ政治的・経済的な意味を世界史的観点から論じる。

科目No.	共催講座 KT533
科目名	新国際石油論 (副題:石油供給構造の変化がもたらす政治的・経済的意味を検証する)
講師名	帝京平成大学 経営マネジメント学科 教授 須藤 繁
日 時	2013 年度(前期)の毎週火曜日 18:30~20:30 [2013 年 4 月 9 日~2013 年 7 月 16 日]
場 所	関東化学ビル 別館3階 研修室

【後期】 コーポレート・ガバナンス

(概要)

コーポレート・ガバナンス(企業統治)のあり方は、国際的にみても企業や経済全体にとって最重要の課題の一つとなっている。日本でも会社法制の見直しが進むなかでさらに関心が高まってきている。主として上場会社を念頭におきながら、コーポレート・ガバナンスについて、法的な枠組みにとどまらず、企業実務や実際に起こった出来事と裁判例を示しつつ、コーポレート・ガバナンスのあり方に関するこれまでの論議等について、国際比較も含め、様々な角度から考察する。実際の企業活動においてどのような出来事が起こっているかを知り、問題意識をもって考えることが本課題を理解し、掘り下げて考察するために欠かせない。履修上の留意点として、会社法(特に株式会社の機関)と金融商品取引法の基礎的な知識は、本課題の理解に役立つ。前期にお茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター(増田研究室)で開講する CT571「企業法基礎論」を受講することはこれに資する。

科目No.	共催講座 KT572
科目名	コーポレート・ガバナンス (副題:国際比較の視点からみた株式会社の組織と運営の課題)
講師名	西村あさひ法律事務所 弁護士(元日本興業銀行取締役証券部長) 栗原 脩
日 時	2013 年度(後期)の毎週火曜日 18:30~20:30 [2013 年 10 月 1 日~2014 年 1 月 15 日]
場 所	関東化学ビル 別館3階 研修室

4. その他(抱負・提案など)

開講機関としての活動は、当社にとって初めての経験です。当社で開講する講座の受講により、受講者の皆様のお役に立つことができれば幸いです。

なお、当社による開講機関としての活動が、「知の市場」の発展に少しでも貢献できるよう努力していきたいと考えます。

以上